

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイソ辰栄株式会社幸田工場新築工	階数	地上2F
建設地	愛知県額田郡幸田町大字須美須美	構造	S造
用途地域	指定なし、法22条区域	平均居住人員	50 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	6,360 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年7月1日
敷地面積	23,485.32 m <sup>2</sup>	作成者	磯村 浩徳
建築面積	4,326.11 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月1日
延床面積	4,581.31 m <sup>2</sup>	確認者	磯村 浩徳



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 89%

④上記+ 89%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>1.7 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	1.7 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	1.7 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
- Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目		評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.0</b>
<b>1 音環境</b>										<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>										
1 室内騒音レベル						3.0	0.40			
2 設備騒音対策						3.0	1.00	3.0	-	
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>						3.0	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>										<b>2.2</b>
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温						2.2	0.50			
2 負荷変動・追従制御性						3.0	0.38			
3 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性						1.0	0.38			
5 湿度・湿度制御										
6 個別制御										
7 換気・空調に対する配慮										
8 監視システム										
<b>2.2 湿度制御</b>						1.0	0.20	3.0	-	
<b>2.3 空調方式</b>						3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>										<b>3.1</b>
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率						3.1	0.25			
2 方位別開口						3.4	0.30			
3 昼光利用設備						3.0	0.60	3.0	-	
4 トップライトの採用						4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 照明器具のグレア						3.0	0.30			
2 昼光制御								3.0	-	
3 視覚的グレア対策										
<b>3.3 照度</b>						3.0	0.15	3.0	-	
<b>3.4 照明制御</b>						3.0	0.25	3.0	-	
<b>4 空気環境</b>										<b>4.0</b>
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質						4.0	0.25			
2 化学汚染物質対策						5.0	0.50			
3 VOC対策						5.0	1.00	3.0	-	
4 VOC対策										
5 VOC対策										
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量						3.0	0.30			
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4 換気計画										
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.20			
2 喫煙の制御						3.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>										<b>3.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性						3.3	0.40			
2 高度情報通信設備対応						2.3	0.40			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	3.0	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観						4.0	0.30			
2 リフレッシュスペース						4.0	0.33	3.0	-	
3 内装計画						5.0	0.33			
4 事務室の天井高2.7mを確保し、窓を設置 建物内全面禁煙とし、休憩室に自動販売機を設置						3.0	0.33			
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計						4.0	0.30			
2 維持管理用機能の確保						4.0	0.50			
3 維持管理業務						4.0	0.50			
4 外壁サッシ全てに水切設置 廃棄物置場を確保						4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>										
1 耐震性						3.1	0.31			
2 免震・制振性能						3.0	0.48			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						4.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.23			
7 屋外フードをステンレス製とし、建物の長寿命化を図っている										

2.4 信頼性				3.8	0.19			
1	空調・換気設備		②	重要度に応じて系統を区分。吊配管等	4.0	0.20		
2	給排水・衛生設備			節水型器具を採用。水槽分離設置	4.0	0.20		
3	電気設備				3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法			耐震クラスA	4.0	0.20		
5	通信・情報設備			通信手段の多様化。地下への設置なし	4.0	0.20		
3 対応性・更新性				3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1	階高のゆとり		②	階高4400mmを確保	5.0	0.60	3.0	
2	空間の形状・自由さ			壁長さ比=0.07	5.0	0.40	3.0	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1	空調配管の更新性		②		3.0	0.17		
2	給排水管の更新性				3.0	0.17		
3	電気配線の更新性				3.0	0.11		
4	通信配線の更新性				3.0	0.11		
5	設備機器の更新性				3.0	0.22		
6	バックアップスペース				3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.39			2.5
1 生物環境の保全と創出		●	③		1.0	0.30		1.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	周辺の街並みや風景にバランスよく調和	4.0	0.40		4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30		2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●	④		2.0	0.50		
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40			3.5
1 建築物の熱負荷抑制				PAL低減率=15%	4.0	0.03		4.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.28		3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用			トップライトの採用	4.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化				ERR値=15%	4.0	0.41		4.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					4.0			
集合住宅の評価					3.0			
4 効率的運用					3.0	0.28		3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50		
4.2	運用管理体制				3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.1
1 水資源保護					3.4	0.15		3.4
1.1	節水			節水コマ及び省水型機器設置	4.0	0.40		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.63		3.1
2.1	材料使用量の削減				2.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	再生クラッシュラン	3.0	0.21		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●			3.0	0.21		
2.5	持続可能な森林から産出された木材				-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と仕上材が容易に分別可能	4.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22		3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		
1	消火剤				-	-		
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		
3	冷媒				3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率=89%	3.4	0.33		3.4
2 地域環境への配慮					3.1	0.33		3.1
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25		
2.2	温熱環境悪化の改善				3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25		
1	雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25		
2	汚水処理負荷抑制			汚水処理負荷を高く抑制	4.0	0.25		
3	交通負荷抑制	●		適切な駐車場の確保	4.0	0.25		
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33		3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40		
1	騒音	●			3.0	0.33		
2	振動	●			3.0	0.33		
3	悪臭				3.0	0.33		
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40		
1	風害の抑制				3.0	0.70		
2	砂塵の抑制				-	-		
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					4.4	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策			光対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70		
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

アツシ産業株式会社幸田工場新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.5\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 アイシン辰栄株式会社幸田工

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 工場用途につき、工場エリアに関しては無駄な内装仕上を省略し、解体時の廃材の低減化に努める。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上材の採用により、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な配管材料の選定により更新間隔の長期化を図る。 また、WCに清掃用流しを設置し、清掃サービスの向上を図る。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外壁デザインを極力シンプルなもの(ガルバリウム鋼板素地若しくはALC+吹付タイル)とし、周辺の風景とバランスよく調和した計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 トップライトを採用することで、『自然エネルギーの直接利用』を図る。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。 特になし